第一部国際協力分科会（第 24 期・第 7 回）議事要旨

日時：2020 年 9 月 11 日（金）15：00～17：00

会場：ビデオ会議形式で開催

出席：町村、西條、上杉、杉原、中野、羽場、広渡、藤原、矢沢、山本、栗田【以上、敬称略】

議題

(1) 前回議事要旨（案）の確認

前回分科会の議事要旨が提示され、確認された。

(2) AASSREC および IFSSO について

・AASSREC(アジア社会科学研究協議会連盟)の現状につき、日本学術会議「加入国際学術団体に関する調査票」の記入内容を確認しつつ検討し、前回大会（ベトナム）に参加した中野委員から補足説明を受けた。次回第 24 回大会は、2021 年（月未定）にオーストラリア・キャンベラで開催予定と告知されている。

・IFSSO（国際社会科学団体連盟）の現状につき、日本学術会議「加入国際学術団体に関する調査票」の記入内容を確認しつつ検討し、上杉委員から補足説明を受けた。2021 年夏に開催予定だった総会は COVID-19 感染拡大のため流動的となったが、2020 年 12 月に COVID-19 に関連したワークショップ（オンライン形式）を実施することが決まったこと等が報告された。

(3) 公開シンポジウムについて

2020 年 3 月 8 日に公開シンポ（「公共空間から考えるアジア」）開催を予定していたが COVID-19 感染拡大のため延期となり、24 期中の開催は難しいため、次期に改めて検討することが報告された。その際、開催形式やテーマについても再検討する可能性があることが確認された。

(4) 国際交流振興の課題をめぐる第 25 期への申し送りについて

委員全員が所感を述べる形で、国際交流振興の課題をめぐる時期への申し送りについて意見交換を行なった。主な論点として、(a) ISC の発足に伴い自然科学分野だけでなく人文科学分野の国際交流も活性化させていく条件が整ったので、これを機に人文科学系の国際交流を発展させる必要があること、(b)国際交流活動における地域間バランスの問題、(c) アジアにおける国際交流をさらに強化する必要性、(d)国際交流分野での活動に継続的に従事する研究者を確保すると同時に、「属人主義」ではなく「組織」を整備していくことの必要性、(e)COVID-19 感染拡大に伴う会議のオンライン化の動きには世界各国のより広い層の研究者との交流の道を開き、国際交流の民主化・大衆化を可能にする側面もあるのではないか、(f)『学術の動向』誌上での企画構想・英語での発信等をさらに強化していくべきではないか、といった指摘（順不同）がなされ、次期以降に引き継ぎ、活動に生かしていくことが確認された。

以上